

令和6年度タウンミーティング懇談録（荃崎会場）

日時：令和6年6月1日（土） 10:00～11:30

場所：ふれあいプラザ

参加者：市長 ほか 参加者 41名

<懇談録>

○参加者1

昨年、市長がおっしゃられたように、Wi-Fiの設置を宝陽台の公民館にスターリンクという衛星通信を入れていただいて、ぜひ今後ご検討いただきたいのが、（聞き取れず）とか災害時ですね、電力がなくなってしまうことを考えると、公民館等に太陽光と蓄電池をセットで接続するというような形で自治体では難しいのが、初期投資に300万とか400万かけてしまうことは難しいですが、多くの場合10年程度で投資回収ができるかと考えると、一度つくば市のほうで設置補助をしていただいて、その売電収入というのはつくば市にお返しするというようなスキームで、そういったことができないのかなというのが、ぜひご検討いただければと思います。

●市長

そうですね。結局、災害のときの電気の問題をどうするのかということで、今、この間の能登のことも含めて、電気が使えなくなったときにどうするのか、世界のトレンドはEVに変換してきてるんですけど、どうもEVだけだとリスクが高そうだなぞみたいなそういう備えをどうしていくのかということも含めてありますので。そうですね。300万くらいで、20年でだいたい回収できるということですね。いろいろ試算していて、どんなふうに…確かに、（聞き取れず）ではなかなか厳しいでしょうから、どんなスキームができるかとか、ちょっと一度ちゃんと中で見てみたいと思います。もし資料とかありましたらいただけたら。貴重な御提案ありがとうございました。参加者1さんはね、ランドセルの御提案をね、いただいて。まさに、ここ2年前のここでしたかね。3年前か。いや、遠くまで歩いて行って、宝陽台の子どもは大変なんですというようなお話がありましたけれども。そういうお声からこういうものにつながっていくということがありましたから。そういう御提案ありがとうございました。

○参加者2

つくば市の環境問題についてお伺いしたいことが。つくば市、旧、つくば市になる前に研究学園都市ができたと思うんですけども、研究学園都市とつくばエクスプレスの開発でかなり自然破壊をしていると思うんですね。僕、ちょっと個人で野生動物の調査をしているのですが、ロードキルなんかも増えてまして、それも結局開発のせい、道路を引いたらロードキルがでるのは当たり前の話で、動植物がつくば市の場合は減少している、種も減少しているという事実がありまして。提案なんですけども、破壊開発するのはしょうがないとして、その代わり開発した上で市民の生活が成り立っているという意味で、動植物園みたいなのをつくば市で作って見たらどうかという御提案をさせていただきます。

●市長

ありがとうございます。生物多様性は、今、市でも計画を作っていて、本当にいろんな植生の関係の専門家とかですね、環境保護専門家とか、いろいろみなさん書いてくれて作っています。私自身、どう都市でありながら緑地を守るかとか、街路樹をどう維持するかとか。街路樹も、もはやつくば市にとっては本当に重要な自然環境の一部になっていまして、そこにいろんな植生があつたりして。実は就任した時は、中心部の街路樹はほぼすべて切るような計画になっていてですね、なぜかという、道路を、歩道を拡張するということだったので、全部止めてですね、一部だけちょっと切られちゃったんですけども、間に合って、なんとか守れたり。それから、洞峰公園もですね、あそこでは1980年くらいから植生についてあるいはどういう動植物、昆虫が観察できるかというのを当時から市民の皆様が記録をつけていただいている、すごく保全として貴重な場所なので、実際今でも茨城県に野鳥が180種類くらいあるんですけども、そのうち100種類くらいは洞峰公園で観察できるような場所ということを言われていて、そういうことも含めて守る判断をしたわけでして、非常に大事に思っています。それをどういう風にあとは実現していくかという部分でいうと、その動植物園というのはなるほどなどは確かに思ったのですが、たぶんえらいコストになる気がしているので、実際今、日本でもトップクラスの植物園が、これ国立ですけども、天久保にありますので、そういうところとの連携というか、言われてみれば、あまり行政として植物園に関わったことはないなあという印象を持ちましたので、まず近いうちに、お邪魔してみたいと。子どもの頃はしょっちゅう行っていたんですけども、最近行ってなかったの。自治体レベルで生物多様性の戦略は今作っていますけども、それ以外のことで一体どんなことがつくば市の自然環境とか生態系を保持していくのにできることがあるでしょうかという御相談をしたいなということ（聞き取れず）しながら思いました。

○参加者 2

一回、市長宛てにメールしたんですよ。市長はメールに目を通してるのかわかりませんが。

●市長

市長へのメールであれば、全部目は…ごめんなさい、いつ頃いただいたんでしょうか。

○参加者 2

だいぶ前で、返ってきたのも半年くらい後でした。この内容ではちょっと納得できないかなと。

●市長

それは申し訳ないです。

○参加者 2

それを踏まえて今回直接聞いてみたいと思ひまして。

●市長

私のほうはそういうところで。ただ、私からの返答のあったものは、私はちゃんと1回は見ているのですが、ちょっと答えが甘かった。申し訳ない。私の思いはそうですが、確認します。ありがとうございます。本当に守っていきたくて、不可逆だと思っているので。いっぱい変えてしまうと、元にも戻らないですから、そういうことは大事にしていきたい。

○参加者 3

話す前に、実は最近この5年間で年間10人中5人くらいある実践というか、市長座っていただいているんですか。今高齢者の方で本当に頻繁に家から出られない状況の方が多々あって、たとえば、市長は椅子に座っていただいているんですか。そこから力が入らなくて玄関から出られません。家の中に車いすも入れられません。外に連れ出すしかないという状況は、この年間10人前後で増えています。そういうのを対応しているんですけども、今実際に市長を一人の力でここまで運べるという方、できるよという方はいらっしゃいますか。

(参加者のうち一人が挙手する)

○参加者 3

できますか。一人で。じゃあちょっとやってもらってもいいですか。そういうことは実際あって、GWにも、GWの前後か。高齢福祉課のほうに、一応見てほしいという相談をしたんです。ただ、ちょっと行けませんっていう、まあ行けないのかと思って役場対応だなと思ったんですけども、住人がこれからそういう状況ってこれからますます荃崎地区でもどんどん増えているので、実際対応しているの、そこに対して、やっている現場と行政とのコミュニケーションをもっと取らなきゃいけないというのをずっと言っているんですけども、なかなかそこは伝わらないという感じで。市長にも内容は前にも話したと思うんですけども、そこはすごくもどかしい思いをもっています今も。

●市長

いろいろ御尽力いただいている、ありがとうございます。今年まずそういう御提案もいただいていますので、今までそれほど他の事業者さんからは困ったお声はなかったようなんですけれども、今 27 業者くらいいるんですかね、介護タクシーも。ここ数年で劇的に増えてきていて、そういう皆さんがやっているに当たって、どういう課題を感じているかとか、どういう困難があるかということは、ちゃんと聞き取ったほうが良いよねということで、まずアンケートなどを実施をして、そこから各事業者で共通の課題のようなものが見えてきたら、それに対して市でどんなことができるか考えてみようというようなことを思っていますので、そういうところをぜひ、アンケートを使って問題提起をいただければと思いますし、そこでみなさんから、これでは事業が全然成り立たないよということがあれば、市でどういうことができるだろうみたいなことを考えたいと思います。市から見ると、事業者がものすごい勢いで増えているというのは、ある程度何か回っている要素があるから増えているのかなとは思っているのですが、これを数字上、字面だけ見て話しているの、実際お話しいただいたように、いろいろな課題があると思いますので、そういうのをちゃんとこれから見ていきたいと思っています。よろしく願いいたします。

○参加者 3

5年間みちゃってるので、これはやりましょう、本当にやりましょうというだけなんですよね。

●市長

はい、やりましょう。やりましょう。

○参加者 4

令和元年からつくバスの大改正をしていただきまして、大変森の里の住人も助かっているんですけども、その際、実証実験の際に、何本かですね、森の里の中につくバスを入れていただきたいというお話をさせていただいたんですけども、それはいろいろな理由で見送られて今日に至っているんですけども、森の里の入り口にですね、バス停があるんですけども。ところが森の里はやっぱりけっこうあの、東西長いものですから、1キロくらい歩いてバス停まで行かなくてはいけない、その中でつくバスを入れてほしいと言ってたんですけども、それはまあ無理ということで、今日に至っているわけなんですけども、せめてつくバスの停留所である森の里の入り口に自転車の…、先ほども電動自転車で来たんですけども、それでですね、自転車で行けなかった人は大変なんですけども、自転車をつくバスを利用したいという方がいましてですね、自転車置き場をあの付近に数台でいいんですけど、何とかしてもらえないだろうかという要望がございまして、それであの、たまたまですね、竜ヶ崎工事事務所さんにまたお願いしようかなと思っているのですが、堤防がありますね。その理由は、(聞き取れず) ちょうどあの入り口のところにちょっと空き地があるものですから、あそこの辺りにですね、自転車置き場…ちゃんと、縦置きではなくて自転車置き場というスタイルでやっていただけないかということで、竜ヶ崎工事事務所さんにもお願いをしようと思っているんですけども、ぜひですね、つくバスのところにもそういったことを考えていただければありがたいと思いますので質問させていただきました。

●市長

すごくいい提案です。つくば市が目指しているのは公共交通を使っていたくことですので、自転車でバス停まで行って、そこからバスに乗って移動していただくのは理想的な移動の形ですので、そのためのできることは、いろいろしていきたいとおっしゃるとおりで、森の里の構造を考えれば、非常になかなかバス停まで行くのも大変なので、確かに自転車で、先ほどの電動アシストであれば多少坂でも大丈夫ですから、ちょっとどういう場所が、まあ竜ヶ崎だとその土地を借りることになるかなと思いますけども、どういう構造、あとどういう基準で、たぶん全部市内のところに自転車置き場を作るのは大変ですけども、何らかの基準を作って、こういうところには設置をするニーズがあるよねというようなことはできればと思っています。まずは現地を見たりしながら、どういうことができるかということを考えていますので。ついでにというか、つくバスを

ですね、私今、令和元年のお話がでたときに、私はとにかく拡充をする方向で今までやってきました。公共交通大事だ、つくバスも大事だということで。荃崎の皆様にもいろいろワークショップをやっていただいたりしてやったんですが、今年の4月、今までの拡充の方針から真逆の縮小ということを経ざるを得なくなりました。2024年の4月に法律の改正があって、ドライバーが残業するのがめちゃくちゃ厳しくなったんですね。まあドライバーだけではなく、いろんな現場でですね、それが起きている。要するに人手がない。で、つくバスも平日が14、休日になると33%減便という、私からすると本当は拡充したいのにということで、その逆を経ざるを得なくなっています。これはもう本当にどうにもならなくて、交通事業者にも相談したところ、お金の問題じゃないんだと。うちがよりお金を出すからといっても、いないものはいないということで、こういう風になってしまい、御負担をおかけしていますが、だからこそ今自転車でどこかまで行っていただいて、あるバスに乗っていただくということができるだけ進めていきたいと思っていますし、併せてドライバー不足も深刻な問題ですので、行政としてもただ見ているわけにはいきませんから、実はこれも牛久市長と土浦市長と話をし、4市で合同でドライバーを養成する、ドライバーバンクというのを作るというのを、国から補助金を4分の3くらいもらいまして、数億円の補助金が入ってくる、それを使って、そういういわゆる2種免許というタクシーとか運転する免許を持っていない人でも運転ができるよう養成して、それを養成した後はできれば2種免許も取ってもらえる、そういう仕組みを今度、先日その国の大きな補助金が決まりましたので、そういうものを実現していきたいなと思っていますが、ただいづれにせよ、すべての移動をカバーできるわけではありませぬので、これは今いただいたように、自転車の利用を促進するというのは、市として全力で進めているところですので、自転車の部門に相談してみたいと思います。ありがとうございます。

○参加者5

これはつくバスに関連があるかもわからないのですけれども、だんだん年を取ってきますので、自転車を援助するというのもわかるんですけども、年寄りが一番行かなくちゃいけないのは病院だと思うんです。病院は人によっては3か所4か所と回っている人もいます。今度もし私の今望みの中はですね、病院を特化した、そういうコミュニティバスなんかができないかどうかと思っています。1日に2回くらい午前と午後1回ずつ、病院をぐるっと回ってきてもらえれば、自転車なんかで雨が降ったら時間がかかったり、タクシーに乗って行かなくちゃいけなかったり、バスで行っても、まず、乗り換え乗り換えとお

金もかかりますんでね、そういうのができれば一番いいかなと思っています。

●市長

そうなんですよね。いろいろバスも病院バスのような形で増やしたりできればいいと思っているんですけども、さっきと同じ話になってしまうのですが、受けられる事業者がないというのが大きい問題だと思っています。で、私が病院の移動で実はすごく可能性があると思っているのは、さっきちょっとお話をした仕組みの中で、今ライドシェアという言葉が時々新聞の中で出てくるのですが、簡単に言うと、1種免許、皆さんのいわゆる普通免許で人を乗せて少しお金をもらえるような仕組みを作りたいと思っています。国のほうでも、法律をどうするこうするという話を国の会議に呼ばれて発言をしているんですが、まさに地域の皆さんが、日中病院に行ったり必要な移動の足がないよねということを私も問題提起している。ただ、今国の議論では、ライドシェアは超過疎地のしかも時間帯もいろいろ制限があるみたいなんです。深夜とかしちやだめみたいなこと言って、それじゃあ使えないですよ。ですので、もう少し柔軟な形のものを作っていきなと思っていて、さっき、それがドライバーバンクにつながってくる話なのですが、そこでたとえばドライバーバンクが、今度テストをしていますけれども、うまく使えるようになっていって、そこでうまくドライバーが育っていけば、荃崎の皆様がアプリで呼べばですね、なかなか知り合いになるのは大変だけど、ちゃんとその人が空いている時間を使って、お金を、タクシーよりは割安で行けるといえるものにすれば、地域の交通の課題は解決の一つ、つながっていくのではないかなと。なかなか今ですね、本当にバスを増やすというのは、ただ、さっきの話にも出たように、議論の俎上にも上がらなくなってきているので、残念ながら2024年4月の2024問題と言われているところからの現状なんです。さっきも言ったように、じゃあ何もしませんといってもしょうがないので、ちょっとうまくいくかどうかはわかりませんが、こういうバンクを、国もたぶんこの事業に注目してくれていますので、まずはエリアも部分的にスタートをするんですけども、やってみて、できるだけそれを市内全域で使えるようにしていきたいなということを頑張っていきますので。すいません病院バスというのはなかなか難しいですが…あの、病院への移動の課題というのはよく認識していますので。

○参加者6

一つ市長にお願いしたいのは、脱炭素ということで非常にシナジーな取組を行っている、大変敬意を表しておるところです。一つお願いしたいのは、実はつ

くば市の電話の対応が、約 35 年間くらい遅れているんですよ。どこと比較するかというと茨城県です。それから水戸市、土浦市。こういったものと比較すると 35 年間も遅れてる。今市民から市に対する色々連絡調整の電話が非常に多いんですよ。こういう状態ですから、電話かけても交換手出ないんですよ。長い時は 40 秒も出ない。どうして出ないのかと言うと、管財課のほうに話してくださいと、こういうことを申し上げる。一つ改善案としてですね、固定電話、各課にあるわけですね。これを公表してないんですよ、つくば市は。だからこれ使おうと思ったら使える状態にありながら、この設置費用、維持管理も全部税金から払われてるわけですからね。これを公表する。それから、係ごとの内線番号。これの公表を渋っているんですよ。県は堂々とやっているんですよ。交換手の教育が全く行われていない。とうとう財務部長をはじめ次長課長等に何回も話してもなしのつぶてだと。というようなことで色々調べてみますと、法令違反をしているんですよ。地方自治法第 2 条第 14 号では、結局地方自治は最小の経費で最大の効果をあげるようにしなければならない。とそんなことを言っているんですけども、つくば市の実態は逆な方向に動いている。こういうことで大変（聞き取れず）だと思います。よろしくお願いします。

●市長

たしかに直接内線を載せるパターンというのもあるということはよく認識しています。ただ、今なぜ交換方式にしているかと言うと、課題として結構市民からすると、どの課か分からないとかですね、ホームページ調べてこの課と思ってかけても実は違う課で、職員がそうするとどこかというのを確認しなくちゃいけないんですよけれども、その例えば違う課に来てしまうと職員はじゃあそれがどの課かを把握していないこともあるんですよ。ですから交換は、そこをこの事業は何課、この事業は何課ということが一番把握しているので、結果として市民に御迷惑をおかけしないのが、まあ今のように全部把握してる交換に入れていただくことで、適切な場所に最初から入れると。これが最初から担当課に入れると、担当課が違ったときに、市民に対して逆に御迷惑をおかけしてしまって、逆にその課は全部の、当然市の事業を細かく把握しているわけではありませんから、どこにつないでいいのか分からなくなってしまうたりして、かえって時間がかかってしまうというようなこともあるのかなあと思っております。それはそれとしてどういうことが可能かとか、最近はまだ本当に色々な新しい技術も出てきていますので、より皆さんをお待たせしないで、まさにその最小の費用と意味で言うと、そこにどう例えば AI 的なものが入ってくるかとか、そういうことも含めて民間では様々やられていることがありますので、そういうことなども検証していくタイミングだなと思っていますので、いただいた御意見、しっ

かり確認して市としてどんなことができるか考えていきたいと思います。

○参加者 7

冒頭で五十嵐市長から牛久沼の越水の話がございましたよね。私もそれを聞きに来たんですが、牛久沼周辺は3か所ですね、越水したの。1年前にあったという話聞いてます。森の里も、うちの団地から六斗の方に向かうところが越水しまして、その後私も県の方の対策、提言書等を見たんですが、その後何かもし分かりましたらですね、対策がどのように進んでいるのか、教えていただくと大変嬉しいんですが、いかがでしょうか。

●市長

対策として、県の判断としてはあの当時については、影響がなかったというのが報告書の結果です。ただ、例えば森の里の入り口のところです、越水した部分がありますけども、あそこは当初の想定よりもどうも下がっていたというのが実態として分かったんで、そこを当面土嚢で対策をするという話ですけども、もう少し構造的に手を入れていく必要があるんじゃないかという話はしています。ですので、あそこをいくらかの高さを、本来想定している高さまで戻していくというような作業がまず必要なんだろうと思っています。やっぱり1か所越水するとそこから一気に影響してきますので、そういう一番弱いポイントがどこかというようなことを前回の反省からきちんと見て、対策をしていくというようなことが今のところの県として動いているところだと思っています。一方で、森の里の皆様からも、例えばカメラなどでもう少しリアルタイムに把握をする必要があるんじゃないかという御提案をいただいている、これは多分県はやらないので市として今回越水したエリアに対してもう少しモニターできるようなカメラを付けていって、リアルタイムに市としても把握をした方が良くないかなということは思っています。県も多分何か所か測定ポイントは増やすことにはなるんだと思いますけれども、やっぱり直接的に目視できて状況がわかるようなものも市としては用意をしたいなというようなことは考えているところです。

○参加者 7

県の方の対策なので市長の方には適切な質問じゃないかもしれませんが、今のお話を聞きますと、例えばかさ上げを8.5メートルにするとかというような話があったんですが、そういうものを含めたロードマップというものは何か、いつくらいまでに計画しようとかそういうものは特に聞いておりませんかしょう

か。

●市長

県のロードマップですか。

○参加者7

いや、ロードマップが適切な言葉かはわかりませんが、どういう内容なのかとかどうしたいんだとかそういうのは把握されていますか。

●市長

県は浸水想定区域の見直しもやりますやりますと言って結構時間がかかったので…聞いてますかね？何をいつ頃までやるかという話って出てます？

(危機管理課長から、「はっきりとしたものは出ていない」という発言)

●市長

…出ていないということです。まあ、すみません、答えになっていないんですけど、聞いても教えてくれないんですよ。時期はなかなか、他のこともそうなんですけど…。すみません、教えてもらってないです。

○参加者7

わかりました。県のほうにでも尋ねてみるほかないですね。

●市長

我々から県に聞くことはできますので…

○参加者7

ぜひお願いいたします。

●市長

我々は、市民の方に、逆にこういう風にお声をいただいたから、もうちょっと具体的に出してほしいというようなことを…全体的にそうなんですけど、遅れたりすることをすごい…つくば市は、だいたいいつ頃…でも遅れたらごめんなさいみたいなスタンスなんですけども。まあ県は相当そういう意味では、ちょっと時期はなかなか言いたがらない傾向があるようには感じます。でも、確認してもう一度、こういう声があったんですけど、というのを聞いて、お返事を個別に

するようにします。

○参加者 7

ありがとうございます。

○参加者 8

5年前、この場で、この荃崎の一部、学校の登下校のルールにちょっと常軌を逸したルールがあるという御相談をさせていただいた者です。あれから5年、根本的には解決していません。この5年の間、直接被害にあわれたご家庭から（聞き取れず）。恫喝された、路上で喧嘩になった、家に警察が押し掛けてきた、引っ越しを検討している、会社を退職に追い込まれた。これは直接被害にあわれた方から直接聞いた話です。このような被害が出ています。なぜ子どもの登下校で、大人がこんな恐ろしいことに巻き込まれるのか。その原因をようやく突き止めました。で、解決方法も今わかっています。ところが、この解決方法を発動するのが大変難しい状況にあります。そこで市の協力を得たいと思って今日ここに来ております。他にもしゃべりたい方がたくさんいらっしゃいますので、この件長くなるので、後日私を呼んでいただきたいのです。資料をもってどこでも伺います。仕事調整しますので、よろしいでしょうか。

●市長

ありがとうございます。そうですね、そうやって時間の御理解をいただけるのは大変ありがたいので、もしよろしければまず一度資料をいただいて、防犯に関わることで、そうすると。市民の生活とか安全にかかわる…

○参加者 8

子どもの教育の安全…

●市長

子どもの教育の安全のほうですか。

○参加者 8

保護者の安全。

●市長

そうですね、わかりました。

○参加者 8

大変深刻な問題です。

●市長

あの、いったんじゃあ、それを広聴にいただいて、適切なところにその内容を
読ませていただいた上で、それが教育系がいいのか防犯系がいいのか、一緒にが
いいのか、というのを調整してまたご連絡するようにしますので。

○参加者 8

これまで様々なところに、市議会議員から、市民ネットワークから、なんとか
長と名の付く方から、かたっぱしから相談をしてきましたが、解決に至っていま
せん。

●市長

解決する方法があるということですね。

○参加者 8

方法はあります。

●市長

ちょっとまず、その方法を読ませていただきますので。時間への御協力ありが
とうございます。

○参加者 9

前回のミーティングでもお願いしたんですけども、介護保険の日常生活支援
の体制でだいぶお世話になりまして、2025 年問題を見据えて、いろいろやって
いただきました。いよいよ最後の段階に来ていると思うんですけども、この問題
について、一部、住人の方と話した結果、何が問題かというんですけども、一つは今
までこの問題を主体的に運営してきた人たちがかなり高齢化してきているんで
すね。なかなか担い手がね、なりにくくなってきたという問題が一つあるんです
けども。それよりもいろいろ話を聞いてみますとですね、いわゆる一層、二層、
三層と話し合いをしたんですけども、いよいよ各団地だとか各地域の話になり
ますとですね、今まで協議会でも話題になってましたけれども、どうも団地の中
に今までの話が伝わってないのではないかとということで、先日も、その二層協議

会のレポートを出していただきましてですね、説明会なんかをやってるんですけども、そういう意味で結局色々聞いてみますとですね、何の問題かという、地域の中でこの問題を主体的に進める方が誰が一番良いのかということがどうも決まってないような話を聞きますので、その辺を今後どうやって運営していくかということについてお伺いしたいと思います。よろしく願いいたします。

●市長

今、間違いなく、世界のあしたが見えるまちじゃないですけど、日本中の自治体がそれをどう作っていくかというのが大きなテーマの1つだと思っています。私なりの今持っている考えはですね、地域の皆さん自身に担い手になっていただく。じゃあそれをどうすればそういう形ができるのか。個人では当然大変です。でも、福祉法人なんて簡単には作れない。でも地域の有志の皆さんが集まる素地は十分にあると思うんです。ただそれが純粋なボランティアでは成立しない、頼むほうもつらいというので、私が一番可能性があると思っているものが、労働者協同組合という仕組みなんですね。これは何かというと、20数年前にNPO法というものができて、日本全国にNPO法人という法人が作れるようになりました。そのことで地域でボランティア活動が広がっています。ただこのNPO法人、別に利益を上げてもいいんですけども、どうしてもボランティアというイメージが強くてなかなか事業というものに本格的に乗り出すのが難しいケースがたくさんあると思うんです。今から2年前に労働者組合法という労働者協同組合法というですね、法律が施行されて、労働者協同組合という法人が作れるようになりました。これは労組とは、名前は近いんですけども全然別のものとして、地域の人が3人出資をして自分たちでそういう組織を作ることができる。法人になるので、市からの事業も受けられたり、当然融資も受けることができる、報酬ももらって良い。みんなでそれを話し合いで作っていきましょうというのが労働者協同組合の理念として、私も会議に合わせて、世界の労働者協同組合の先進地などをいくつか見てきたんですが、そこではまさに、例えば介護などを労働者協同組合で実践をしたりしています。今、介護の、つくば市でも例えば介護の人材のための報奨金などを出していますけれども、なかなか、じゃあ若い人がどんどん介護に入ってきてくれるかということ、そういうわけではないわけです。今、まさに参加者9さんがおっしゃったように、地域の中で、地域の動ける方が地域の人をできる範囲でケアをしていくという、地域の中でのケアがカギで、地域の中でのケアと、地域の中での労働者協同組合というのは、私は実はすごい可能性があるのではと思っています。例えばですけども、森の里の皆さんが労働者協同組合をつくられて、そこで可能なケアをしていくと。別にそこで、もちろんそこに森の里ではない方が入ってきてても全然問題ないんですけども。そうい

うことが逆に、数少ない実現可能なものなのではないかと思っ
ていまして。実は全国では、そういう活動をしているような事例が、まあ多くはないんですけれども、ありますので。今つくば市では労働者協同組合ってそもそもどんなものなんだろうとか、どうやって立ち上げられるのだろうかとか、どういうことをやるんだろうなというものの、セミナーをシリーズでやっています。これは区会の皆様などには御案内をしていますけれども、今年もやります。今年は…立ち上げにはやっぱり資金が要りますので、60万円の補助金を御用意しています。これは3年分御用意しています。そういうところで事業を地域の、本当にコミュニティ単位でやっていただくことが、地域福祉の今後の大きな可能性じゃないかと思っ
ていて。実は去年セミナーに出てくださった、元議員の方なんかも、地域の中でのケアって労働者協同組合しかもうないんじゃないかみたいなことをおっしゃっていましたので。そういう情報を後で個別にお届けしたいと思っ
ますので。まずたぶん、そういうことを今すぐでも始めていくというのが、今後の長いスパンで見たときに必要なのではないかと私としては思っ
ています。

○参加者 9

地域の誰がやる問題かもある。

●市長

まさにその、地域の皆さん御自身だと思っ
ています。それを民生委員さんに頼めるかという
と、またちょっと民生委員さんもそういう前提では受けていた
いていなかったりしますので。それを皆さんの中で作っ
ていく、もちろん市でも何もしないわけではなく、市も一緒
に、たとえば準備会などもやっ
ていくこともあると思っ
ますけれども。地域の中で誰が担い手になれるかというこ
とを話を
していただきながら、もちろんできる範囲で、全然無理な範囲がある
でしょうから、当然それは福祉法人じゃないと無理なレベルだ
よねというのはそちらにやっ
ていただくというような役割分担をコミュニティ単位でして
いくというこ
とが描ければなと思っ
ています。ただもちろん、そんな事例は、そこまできちんと
でき
ている事例はそんなにないと思っ
ますので。ただ、今何もしないとまさに、皆さんが高
齢化されていくと思っ
ますので、非常に厳しい状況が来るのは目に見え
ていますので、ちょっと模索をしていきたいというのが正直
なところ
です。こうすれば大丈夫ですとか言い切る自信は、まだ実績
がないのでないんですけれども、そういうことを一緒に考
えられればなと思っ
ています。

○参加者 10

不登校の話在先ほど伺ったので、ありがたいことだなと思っていたのですが、それ以上大きくなって、引きこもりに関して、ものすごく、退職した頃から関心が高いです。今までの活動の様子や今後の施策等ございましたら、ぜひ教えていただきたいと思います。

●市長

不登校の問題は、引きこもり閉じこもりにつながっていく問題だと、そもそも思っています。ですので、きっかけをどう作るかということはすごく大事ですので、こういう取り組みをしていくということが1つあるんですが、引きこもりの問題で悩ましいのは、支援を求めていただけるとこちらも対応を始められるケースはあるんですけども、たとえば、サポートに入りたくても、御家族がなかなかそれを望まないケースなどで、どうしても踏み込めないケースがあるなということは、非常に悩ましい問題です。当然、御家族の意思は大事ですので、何らか支援機関がそれぞれありますので、その適切な機関にどうつなぐか、あるいは、社会資源と言われますけれども、どういう社会資源につなぐかというのが、やっぱり地域包括などで御相談をいただければ、そこに入っていけるんですけど。いろいろな相談の仕組みはあります。解決するしないというのは、全然、問題としてまた次の次元ですけども。寄り添って伴走をしていけるようなある程度の仕組みはあるんですけども、その入り口に立つことの難しさというのが、今一番の課題かなとちょっと思っているところです。悩ましくて、答えがなくて、私の今の答えも、答えになってないなと思いつつ答えているんですけども…。

○参加者 10

そうですね…。本人にとっても人生、市にとってもものすごい損失ですね。福祉問題もスウェーデンとかああいうところと比べることはできないですけども、一人一人の税金で市は成り立っている。そういうことからしても仕事を持ってほしい、そして、行政と等しいという観点に立ってやれるなら、何か少しは（聞き取れず）あるんじゃないかなと思っています。そんなところです。

●市長

また労働者協同組合の話で恐縮なんですけども、仕事なんかで不安になったりして、要するに、今までは働いていたけれども引きこもるケースなんかもあったりするわけで、実は、元ひきこもり当事者の皆さんが立ち上げている労働者協同組合なんかもあります。それはやっぱり、労働者協同組合って、働き方が優しい、人間中心の働き方をやるので。でも、例えば引きこもりの人たちにもそれぞれ特性があって、たとえば、プログラミングがすごい得意な人とかいたりするわ

けです。その人たちが集まって、今活躍をしているような労働者協同組合もあつたりするので、そういうところに何とか、一回ここに行けばうまくいくよみたいなことばかりではないわけで、逆にうまくいかないことのほうが多いんですけども、いろんな社会資源があるので、とにかくそれに少しでもつないでいきたいなど。何か、あまり、働け働けてやると、それは当然逆効果ですから、ただ、自分の居場所をなんとか見つけられるように、市としては関わり続けたいなど思っています。

○参加者 10

そうですね。民生委員さんとか、いろんなところにお声がけいただいたり、そのいろんなところからのアプローチなんかも（聞き取れず）。なんでもない私なんか行ったら大変なことになりますので。だから静観しなくちゃならないなと思っています。

●市長

心配していただいてありがとうございます。

○参加者 11

まずですね、荃崎地区を見捨てないでいただきたい、これをちょっと最初にお願ひしたいと思います。2002年に荃崎地区がつくば市に編入されて、その時に65億円だったと思いますが、数字間違っていたらごめんなさい、合併特例債が出たわけですが、それが荃崎地区のために使われたということはまったく感じないわけなんです。その65億円、66億円と総合運動公園の用地買収代、それをほとんど一致するものですから、荃崎地区でですね、総合運動公園の反対住民署名ですね、これ実は8割が反対ということで、あれが五十嵐市長の誕生につながったわけなんです。そこに、荃崎地区の意思というものをですね、もう少しつくば市に編入されて良かったと思われる、そういうものがないのかなというのが私自身の疑問です。コロナ前のタウンミーティングで、つくば市に合併してですね、良かったという実感が無いのは大変申し訳ないという確か言われたと思うんです。去年のタウンミーティングでは、皆さんが考えているよりは、市長として荃崎地区のことを考えていると強調されたと思うんです。やっぱり目に見える形で実感できること、個別的にはつくバスなんです。牛久駅への乗り入れとかいろいろあると思うんですけども、全体としてつくば市に合併して良かったとそういう実感があるようなものを何か出していただけないかなと思うのが要望です。

●市長

個別の施策の積み重ねを私はやってきているので、先日の区長さんとの集まりなどでも、いろいろと変化している実感を感じているというお話をいただいているんですけども、さらに加えて、新しい給食レストランとかですね、そういうことをやっていて、逆に他地区の皆さんからは荃崎投資多いよねというお話をいただくこともあったりして、今度ここの福祉センターのお風呂の改修もしてですね、お風呂も皆さんでもっとコミュニティとして入れるようにしようと、いろいろ取り組んではいるつもりですけども、逆に何が目に見えるというのは、どういうことを想定されていますか？

○参加者 11

やはりつくば市に合併して良かったんじゃないかと、編入して良かったんじゃないかと、荃崎町のままで良かったのか、合併して良かったのか、それともう一つ、牛久市と合併する話もあったんですよ。結果的にはつくば市となったわけですけども。なんか取り残されているという、そういう疎外感を感じるということで。もちろん、そういうことがないように努力されていることは個別적으로는わかるんですけども、合併して荃崎地区自身がこう発展していくんだ、そういう見えるもの、実感できるもの、総合的に見て個別的でなくこうなんだというものを感じられたいと、そういう風を感じております。

●市長

個別な取り組みは御評価をいただいているけれども、ということですね。参加者 12 さん、どうしたらいいのでしょうか、こういう。たしかに地理的にどうしてもアクセスの問題等々あると思っているんですけども、結構色々話…個別にありますけどね。どうぞ。

○参加者 12 (高見原)

それぞれのポジションで個人的な意見というのも大事ですけども、正直言って、今日の質問、お尋ねしていることは、ああなるほどなということは納得しました。で、僕は、一番最後に言おうかなと思っていたことが一つだけあるのですが。実は、昨日ある町にいて大きな会議があってそこで色んな人の意見を聞きながら感じたんですが、その町の名前は申し上げませんが、まず頭にきたのは音響が全然ダメなんですよ。なんだ今時こんなの使ってるのかというような感じで。そのくせ建物は立派なんですよ。どれだけ利用されているのかと思ってみたら、ほとんど使っていないんですよ、たまたま昨日は。えええ、と思

いながら今日ここに来まして感じたことは、やっぱりつくばだなあと、すごいなあとと思いながら聞きました。わたしの目の前からよく見えるんですよ。すごいなあと。正直これ（※シースルーキャプションズのこと）見るの初めてで、よそでもこんなやっているのかなあと。おそらくやっていないんじゃないかと。というようなことを感じながら、さすがつくばだなと思って期待します。以上です。

●市長

ありがとうございます。そうですね。今の御質問すごく大事な視点だと思います。ただ、一朝一夕にアイデンティティとか、横文字になって恐縮ですがシビックプライドという言葉が使われますが、自分の市民としての我が街への誇りのようなものでたぶん作っていくにも時間がかかると思いますし、それをまた実感するのはすごくかかると思います。ただ実は荃崎の皆さんは、荃崎に対するプライドは、良い意味ですよ、良い意味のシビックプライドがすごく高いんじゃないかなと正直思っています。皆さん荃崎に生まれ育った方もそうでない方もこの街を皆で良くしようよと、だから区長さん方も本当に色々な形で活躍されていますし、タウンミーティングにもこうして沢山の皆さんがお集まりいただいている、こういう思いを持っている人たちが沢山いるのが、私は荃崎だと。他が駄目って言ってるんじゃないですよ。荃崎の皆さんがそういう強い思いを持っているんじゃないか。それを街として全体として、つくばに合併して良かったなと思っていただくために一体どういう指標があるのかというのは、正直今はお答えすることができませんけれど、さっきこれ褒めていただきましたけれど、やっぱり個別の積み重ねをしながら、ある人はこういうことに、荃崎もいいなつくばで良かったなと感じていただけたり、ある人は別のことでと。そういうことの積み重ねで、魔法のようなものはないんじゃないかなと思っていますし、誰かが変えてくれるとは、私常に思っているんですけど、あの人がなんとかやってくれる、というのは存在してなくて、政治の世界に幸せな青い鳥は飛んでいないと私は思っているんですけども、でも自分たちでどういうことができるかっていうのを一つ一つ積み上げていく中で、つくばで良かったなと思っていただけるんじゃないかと思うので。

○参加者 11

あとスピード感ですね。

●市長

はい、スピード感ですね、持ってやっていきたいと思ってます。市としてのこういう情勢をそれを目的にしてしまうというよりは、いろんなことをしながら

自然にできていくものなのかなと思っていますので、もちろん課題は沢山ありますので、課題は対応しながら、皆さんと一緒に解決しながらそういう取組を進めていきたいと思っています。

○参加者 13

いつも高齢者対策でお世話になり、ありがとうございます。一番今毎日のように来てる運動公園のことでお尋ねしたいと思っています。運動公園の管理については、何年かに1回は業者が変わって、芝の手入れとか雑草、ですけども、刈る時期というのは契約でしょうから、例えば、私ちょっと何回刈るんだって話も聞くんですけど、直接聞いたわけじゃないんで分からない。ただその業者によっては例えば芝を刈るときにこのくらい刈るとか、基準が多分ないんじゃないかと思うんですよ。それで、たまたまエピソードみたいになっちゃうんですけども、4月にグラウンドゴルフの大会があって、たまたま私の方が当番だったんで、その前の日に草を刈ってくれたんですよ。最初の挨拶の時に、天気もいいし、芝も昨日刈っていただいたので絶好のコンディションと言った。言って、始まったらね、「参加者 13 さん、何よこれ。虎刈りじゃないか。」と。行ったらね、ほんとうにもう。管理部署とか見て分かんないですよ。行ってみると刈ってはあるんだけど、私から見たら刈ったにはならない。だから、たまたま公園管理の部署に、公園管理課にお邪魔しようと思ったんですけど、たまたま話す機会があったんで話しちゃったんですけど、契約して新たな業者さんになった時は、第1回目くらいは公園管理課の職員さんが確認するとか、そういう感じのことが必要なんじゃないかと思っていますので。

●市長

分かりました。外観的に御迷惑をおかけして申し訳ございませんでした。それは当然基準はあるべきですし、例えばアーチェリーを国体でやった時なんかは、あんまり長すぎると困るからいつもよりすごく短く刈り込むとか、そういうできるだけ皆さんのニーズに合わせて業者さんにもお願いするようにはしていると思いますが、虎刈りっていうのはそもそもそんな仕様はないと思いますから。

○参加者 13

はっきり言って前の業者さんは、終わって会うと、「どう？使い勝手いかがですか。」と本当に優しかったんですけど、今度のところ優しくないって言ったらあれですけど、そのへんのところ、基準みたいなのをある程度公園なんか管理していただけるとありがたいなって話です。

●市長

分かりました。ちょっと専門家がここにいるんですけど。ちょっとコメントもらってもいいですか。どの業者さんかまでは私把握していないので。

○他の参加者

正直言って、業者さんの間違いなくレベルだと思います。私も公園管理とか街路の管理とかやらせていただいておりますけど、毎年変わってしまうっていうのは入札制度の問題で致し方ない部分がありますので、その辺は荃崎地区エリアにかかわらず、つくば市全体として必ずそういった問題は出てきます。ただ、お陰様というか、まだこの地域に関しては、皆様使い方が良いとか市民の皆様も含めて、まだ良いとは思いますが、もっと中心地に行くと、もっと細かいところまで言われるっていうところもありますので、そういう意味では、もし個人的に御連絡いただければ私も近くですので、しっかり見させていただいておりますので、そういったところで。

●市長

そうですね、近いは近いですね。こちらで責任持って、よくいただいた課題意識を公園に伝えますので。対応していきたいと思います。

○参加者 14

前回の最後あたりかな。問題を告発するような、おそらく市役所の方じゃないかなど。そういうものをどう扱っているのか対応しているのか。実は私も市役所のことで問題をずいぶんと昔訴えたことがあって、市長さんがまだ議員さんのころ、都市計画指定のことですけど、一昨年、去年くらいその問題で実際に、あまり大きなことではないけれど被害が発生したので、もう一度訴えかけようと思ったんですが、その昔の時に相談させていただいた議員さんにも持ちかけたけども全然反応がなくて今回別の議員さんに…相談させていただいて、まあそういう、市民からの告発みたいなのになんと対応をしてもらいたいなど。

●市長

問題提起に対して市としてどう対応しているかってことですね。それは当然個別にケースが全然違いますので、一概には申し上げられませんが、まずは法律とかいろんなものに合わせて正しいことが行われるようにするというのは

一番大事なことですので、もし不適正な事案があれば、それは当然確認をします。私が就任してから何をしたかっていうと、まずそもそも、そういう不適正な事案が上がってくる仕組みがなかった。ですので、要するにずっと上に相談できないで担当課で抱えてしまう。上司には、本当下手したら部長も知らないようなことがあったりする。そういうことが就任してすぐありましたので、色んな案件がです。それですぐにそういう不適正な事案とか問題があればすぐに上げると、何時間以内にここに報告して、何時間以内に、そういうルールを作りました。今はかなりの、かなりというかほぼすべての案件はいま即座に上がってくるような習慣というのが出来てきていて、案件によりますけども、その処理でOK終わりみたいなものもあれば、逆にまだ踏み込みが足りないんじゃないかというものに対しては私も直接介入するというようなことをしています。ただ、いまだに昭和のようなやり方をしている部局が先日も少しありまして、それで残業に対して厳しいことを言っていたので、それを改善するようにしたんですけども。そういうことがまだありますので、ゼロにはなっていないというところが正直なところです。ただ逆に法的に問題があれば御指摘等はすぐに法務等には確認して、基本的には適正化をするということは進めてはいますが、逆に問題がないケースであればそれは問題がありませんというお答えをするしかないのかなあと思っています。ちょっと一概には言えませんが、市全体としては適正化の動きというのは行っています。

○参加者 14

前回の時に言っていた方の様子では、役所の中で言ってもどうにもならないんで市民のいるところで言おうとしたんじゃないかなあと思ったんですね。それから、自分の問題のとき、その昔のとき、オンブズマン制度があって、それを利用させてもらったけど、どうもそのオンブズマンさん、問題があってもなにか否決の方に入れてしまうような感じで。

●市長

そういうご印象をもたれてしまったのはあれですけども、オンブズマンの方はちょっとすみません。私が就任する前は分かりませんが、今は本当に中立的に、決して行政の側でもなく、だからといって住民の言ってることを100%というのでもなくて、法的にあるいは専門的な見地から見てその実証がどうかということを考えていただいておりますので、行政に対してかなり厳しい御指摘をもらったこともありますし、オンブズマンも市役所の一味みたいな状況が今は全くないということはお約束できるかなと。ただ、案件によってはオンブズマンの裁定になかなか納得できないケースもあるのも把握はしています。

○参加者 14

それから具体的な問題については、先ほど議員さんに。

●市長

分かりました。聞いておきますので。

○参加者 15

高齢者に向けてのサービスの中で、冒頭に市長さんのお話でもありましたけど電動アシスト自転車購入の費用の補助を拡大しましたよというお話がございましたが、その中でね、質問から言っちゃうと、新品のヘルメットのみの補助っていうのに拡大する予定はありますか、今後あるんでしょうかというのを聞きたいんですけども。電動アシストの中で、今の補助の中では、アシストを買うと、講習を受けて買いなさいという風になっているんですね。その中で、同時にその時に限り、ヘルメットも購入の対象になっていますよ、となっているんですね。つまり、新品ヘルメットだけの購入補助というのではなくて、電動アシストを買うときに同時にヘルメットを買う場合は、それを対象になってますよっていうことになっているんです。それでですね、ちょっと私読みますね、先日読売新聞で5月5日の記事の中で自転車のヘルメットの定着、自転車に乗る時のヘルメットの定着は遠いですよ、努力義務化、1年経つのに何パーセント何パーセント。で、各県で上位5県と下位5県が載ってたんですね。で、両方茨城県は入っていませんでしたね。どの辺にあるのかわからないですけど。というようなことがあって、今の補助制度では電動自転車を買うときのみ、それと一緒にヘルメットを買う場合は補助の対象にしますよという風になっているんです。それを、ヘルメットだけの補助というふうに拡大するという方向にあるんでしょうかというのを聞きたいんですけど。

●市長

子供たちのヘルメットの助成は都度なので、高齢者の方が厳しくセットで対にしているのを把握しておりませんでした。恥ずかしながら。こういうこともあるんですね、やっぱりね。たぶん想像するに、必ずヘルメットをかぶってほしいからそこで対に申請すればいいんですよということにしたんだと思いますけれども、逆に今自転車乗っている方が自転車のヘルメットの補助を、高齢者が求めるということは…できるんじゃないかな、うーん、どうなんだろう…。

○参加者 15

できません。できないんです。

●市長

はい。おっしゃるとおりだと思います。オプションだと思ってたんですけど、その時しか駄目という認識がなかったんで、高齢者の皆さんがヘルメットを購入する、別に電動アシスト自転車を市から補助を受けなくても、自分の自転車に乗るために補助があるということは、ヘルメットの促進からは必要な気がしますので、担当課と、持ち帰って相談してみます。

○参加者 15

よろしくお願いします。

●市長

こうやって把握してないことがあるんですね。だからタウンミーティング、非常にありがたい機会なんですけれども。相談してみます。